

1面 5年表彰および全体会議報告  
伏見隆枚方市長挨拶  
学校紹介 春日小学校  
コロナ5類移行後の招提校区内の活動

2面 会長就任挨拶  
こども家庭庁の設置概要  
雑感、編集後記

# 青少年育成指導

広報第179号

令和5(2023)年11月1日  
発行 枚方市青少年育成指導員 連絡協議会

## 令和5年度(2023年度)枚方市青少年育成指導員 連絡協議会の全体会議・講演会が開催されました

令和5年6月18日(日)午前10時から輝きプラザきらら7階たまゆらいべントホール(大研修室)にて枚方市青少年育成指導員連絡協議会の全体会議が開催されました。111名の出席で、第一部で伏見隆市長、山本光茂会長の挨拶の後、青少年育成指導員委員5年の方々に感謝状を当日参加の15名の方に伏見市長より贈呈されました。今年度の該当者は33名でした。

第二部に移り、大阪教育大学総合教育系の牧部子教授を講師に迎え、「子どもの心に耳をすます〜子どもの心を支える大人の聴く力とは〜」と題して講演がありました。子どもの感情の社会化を促しその感情を認めることは、考える力の醸成につながり、大人が子どもの気持ちを引き出す聴き方を心がけようという大変参考になるお話の1時間でした。

津田校区 大林 康二

### 伏見隆 枚方市長挨拶

青少年育成指導員の皆様には、青年の事故や非行防止のため、日頃から地域のパトロール活動のほか、「こども110番の家」の旗の設置拡大に向けた取り組みなど、青少年の健全育成や安全安心な明るい社会環境づくりにご尽力いただいておりますことに、厚く御礼申し上げます。

さて、青少年を取り巻く状況に目を向けますと、依然として、子どもが被害を受ける事件は後を絶ちません。近年では、児童虐待や非行行為のほか、SNSの不適切な利用による子どもの

性被害や、闇バイトの犯罪行為など問題が深刻化しています。事件や事故から子どもたちの身を守り、健全で活力ある大人に育てるためには、家庭、地域、行政が手を取り合い、社会全体で子どもたちを見守っていく必要があります。

国においては、この4月1日に、「こども家庭庁」が設立されるとともに、「こども基本法」が施行されました。

本市におきましても、このような国の流れも踏まえ、引き続き、青少年育成指導員の皆様と協力しながら、子どもたちに安全・安心な環境を提供し、健全な成長につながるよう、取り組みを進めていきたいと考えております。

皆様におかれましても、これまで培われてきた地域でのネットワークや経験を最大限に活かし、青少年の健全育成に向けた取り組みにお力添えをいただきますよう、お願い申し上げます。

結びに、皆様の今後益々のご活躍ご健勝を心よりお祈り申し上げ、私の挨拶とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



写真は講演会のものに差し替えます。

## 青少年育成指導員 5年表彰 受賞者ご紹介

枚方校区	毛利 仁志 様
枚方校区	木下 彰夫 様
枚方校区	野村 茂樹 様
枚方校区	阿部 大地 様
蹠陀校区	津田 昌幸 様
蹠陀校区	榎林 美歩 様
開成校区	長谷部 裕香 様
五常校区	窪田 哲也 様
五常校区	富樫 真実 様
春日校区	木村 宏 様
桜丘校区	富田 英美 様
山田校区	松本 光徳 様
明倫校区	佐々木 則子 様
殿山第一校区	前田 達也 様
樟葉校区	橋本 恵二 様
津田校区	神内 梢 様
津田校区	園田 貴義 様
菅原校区	藤田 真樹子 様
菅原校区	笹田 泰弘 様
交北校区	島村 章二 様
招提校区	富永 周二 様
小倉校区	門脇 満洲男 様
磯島校区	村田 貴香 様
蹠陀西校区	荒木 久子 様
西牧野校区	土田 太賀男 様
桜丘北校区	辰野 誠 様
津田南校区	西尾 三紀 様
津田南校区	富中 毅 様
山田東校区	飯野 猛 様
藤阪校区	豊田 道夫 様
藤阪校区	河野 裕志 様
平野校区	三浦 康博 様
西長尾校区	東 寛之 様

### 学校紹介 春日小学校 校長 木場 ゆかり

春日小学校は昭和四十一年に枚方市で十六番目の小学校として創立されました。現在、第一学年2クラス、第二学年各3クラス、479名が在籍



春日小学校 木場 ゆかり 校長

しています。校区は、枚方市の南部に位置し、大阪府と京都府を結ぶ第二京阪道路に近接しています。また、枚方市・交野市・寝屋川市の3市の境界部にもあたり、国道や府道の大きな道路沿線には、商業施設や病院等が立地しており、開発されて土地に新しい住宅も建ちつつ、農地もまだ多く残っている地域です。

本校では、「考える、つながる、かがやく」を学校教育目標とし、すべての教職員が「チーム春日小」として協力し合い、「自立、協働、創造に向けた主体的な学びを支え、可能性を最大限に伸ばす」ことを目指し、日々取り組みを進めているところです。

「コロナ」をきっかけに、一人一台のタブレットを配付するGIGAスクール構想が前倒しで実施され、授業を配信したり、タブレットを活用する新しい授業スタイルが変わったりと学校の様子も大きく変わってきています。ICTを生かし、有効活用する方法も研修等を行い、授業改善にも取り組んでいます。

以前より地域との交流も盛んで、児童の登下校時に多くの地域見守りボランティアの方々や保護者の皆さまに温かく見守っていただいたり、日常的に様々な場面でご協力いただいたりしています。今年度は、校区自主防災会の防災訓練と防災キャンプを合同開催する予定です。

これからの未来に、また新たな困難が立ちはたかるかもしれません。どんな時にも、自分で考え、新しい道を切り開いていける力を、保護者・地域の皆さまと一緒に育ててまいりたいと思っています。今後、より一層のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

### 新型コロナウイルス5類移行後の招提校区内の活動について

招提校区では、新型コロナウイルス感染症で3年間校区夏祭りや区民体育祭が中止されてきました。本年5月8日から感染症法上5類に位置づけられましたので、校区住民のふれあいの場として8月26日に校区夏祭りが開催されました。当日は、4年ぶりの開催に多くの住民の方が開催場所の招提小学校に来られました。午後4時に模擬店がオープン、開会式前には、伏見市長が来校され、挨拶の後、模擬店に立ち寄られる姿がありました。開会式の後、ステージでは、招提中学校軽音楽部の歌と演奏、つづいてヒップホップダンス、そして、地元のグループによる河内音頭で祭りも最高潮になりました。最後に200発の花火が夜空に舞い、無事夏祭りが終了しました。

10月8日には区民体育祭が開催されました。新型コロナウイルス感染症前までは、地区対抗戦でしたが、今回は、参加された方でチームを作り、玉入れと綱引きで順位を争いました。後、小学生の100m競争、袋食い競争、幼児競争を行い、午前中で終了となりましたが、玉入れや綱引きで盛り上がり楽しい時間を過ごすことができました。

招提校区 吉久 茂

**「子ども家庭庁の政策について、主な分野の取組項目と子どもの居場所づくりの解説を見ていきます」**

1. 子どもの視点に立った司令塔機能の発揮、子ども基本法の着実な施行

- 子ども大綱の推進
- 子ども基本法
- 子どもの意見聴取と政策への反映

- 「子ども若者★いけいけいけい」プロジェクト
- 子どもデータ連携実証事業
- 国際関係

- 2. 子どもが健やかで安全・安心に成長できる環境の提供
- 子ども・子育て支援制度
- 子ども・子育て支援
- 保育

- 幼児期までの子どもの育ちに係る基本的なビジョン（仮称）
- 子どもの居場所づくり

全ての子どもが、安全で安心して過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動や外遊びの機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、幸せな状態（Well-being）で成長し、社会で活躍していけるようにすることが重要です。子ども家庭庁では、「子どもの居場所づくりに関する指針（仮称）」を閣議決定し、「これに基づいて子ども居場所づくりを推進します」。

**子どもの居場所づくりに関する調査研究・報告書概要**

居場所の現状と課題、及び提言  
 - 背景、居場所の位置づけ  
 - 社会的変化を踏まえた居場所づくりの必要性

・地域のつながりの希薄化、少子化による子ども・若者同士の育ち合い・学び合いの機会の減少等により、「子ども・若者が地域コミュニティの中で育つ」ことが困難になっている。特に地方部では過疎化が進展し、地域の居場所づくりが課題。

・今後、地域交流の場を新たに創出する、意図的に居場所をつくりだそうとする営み（居場所づくり）が求められる。

課題の複雑化・複合化、価値観の多様化に伴う居場所づくりの必要性

・孤独・孤立への不安、児童虐待の相談対応件数や不登校、ネットいじめ、自殺する子ども・若者の増加等、子ども・若者を取り巻く課題は複雑かつ複合化しており、これら喫緊の課題や個別のニーズにきめ細かに対応した居場所をつくり、誰も取り残さず、抜け落ちることのない支援を行う必要がある。

・価値観の多様化やそれを受け入れる文化の広がりに伴い、多様な居場所づくりが求められる。

■居場所の位置づけ  
 家庭、学校を含め、子ども・若者が過ごす場所、時間、人との関係性全てが「居場所」となりえると整理

■子ども・若者の居場所づくりにおける理念  
 心身の状況、置かれている環境等にかかわらず、子ども・若者の権利の擁護が図られ、将来にわたって幸福な生活を送ることができ

ことを目指す。

■子ども・若者の居場所づくりにおいて大切にしたい視点  
 ・居場所づくりにおいて重要なことは、子ども・若者の主体性の尊重である。

・その場を居場所と感じるかどうかは、本人が決めることである。

・そうした観点から、子ども・若者の声（視点）を軸に「居たい・行きたい・やってみよう」の3つの視点で整理した。

\*子ども・若者の声には相互に矛盾するものもあるが、多様な居場所づくりにおいてそれぞれ尊重したい視点であるため、そのまま記載した。

“居たい”  
 ・居場所が求められる根拠として受け止められることを願う  
 ・居ることの意味を問われないこと  
 ・信頼できる人、味方になってくれる人がいること  
 ・適切な場所、素のままの居場所があること  
 ・誰かとつながれること  
 ・気の合う人がいること  
 ・安心・安全な場であること  
 ・くつろげる環境が整っていること  
 ・居たいだけ居られること  
 ・助けてほしいときに、助けてくれる人がいること  
 ・誰かとコミュニケーションできること  
 ・話を聴いてくれること  
 ・別の目的をもった人がいても、同じ空間にいられること  
 ・一人で居ても気にならないこと

“行きたい”  
 ・自分を受け入れてくれる誰かがいること  
 ・身近にあること  
 ・気軽に行ける、一人でも行けること  
 ・お金がかからずに行けること

・誰でも行けること  
 ・行くきっかけがあること（必要に応じて、子ども・若者へアウトリーチで関わること）  
 ・いつでも行けること  
 ・自分と同じ境遇や立場の人がいること（子ども・若者自身が居場所に行く時間を選べること）

“やってみよう”  
 ・いろんな人と出会えること  
 ・好きなこと、やりたいことができること  
 ・自分の意見を言える、聴いてもらえること（自分の意見が反映されること）  
 ・一緒に学ぶ人、学びをサポートしてくれる人がいること  
 ・いろんな機会があること（興味や希望に沿ったイベントがあること）  
 ・未来や進路を考えやすききっかけがあること  
 ・あこがれを抱ける人がいること  
 ・新しいことを学べること  
 ・自分の役割があること

● 子ども・若者育成支援  
 ● 子どもの安全  
 ● 青少年の安全で安心な社会環境の整備  
 3. 結婚・妊娠・出産・子育てに夢や希望を感じられる社会の実現、少子化の克服  
 ● 少子化対策  
 ● 母子保健・不妊症・不育症など  
 ● 妊婦・子育て家庭への伴走型相談支援と経済的支援の一体的実施（出産・子育て応援交付金）  
 ● 科学研究  
 4. 成育環境にかかわらず誰一人取り残すことなく健やかな成長を保障  
 ● 児童虐待防止対策  
 ● 社会的養護  
 ● ひとり親家庭等関係  
 ● 障害児支援

● 子ども家庭庁におけるいじめ防止対策  
 ● 子どもの貧困対策  
 ● ヤングケアラーについて  
 ● 子どもの自殺対策

雑感  
 山田校区 坂本 剛

近年、猛威を振るっていた新型コロナウイルスも油断はできない状況にはありますが、共存に向かつての動きが定着しつつある近況にあります。

その中でいきいき広場の運営も制限が少なくなり、ほぼコロナ前の活動ができて始めています。特に運動系のドッチボール、バドミントン、サッカー教室、グラウンドゴルフは人気プログラムで子ども達も大汗をかきながら一杯動き回っています。

最近の子供達はTVゲームやインターネットの普及により屋内での遊びをする事が多いと聞きますが、汗をかいて発散している姿を見ると満足でもない気がします。

私たちもサポーターとして子ども達と一緒に活動しますが、子ども達のスタミナになかなか付いていけずに年齢の差を痛感する事が多いです。

しかしながら、私達たちに対して懐いてくれる子ども達は大変可愛いのので、何とか力を振り絞って一緒に活動していきます。

山田小学校も児童数が減少して私の息子達に通っていた時より寂しくなっていますが、いきいき広場を楽しみに来てくれる子ども達の為に運営を続けていきたいと思

います。

その為にも新しいプログラムや地域と連携してイベントを企画していきたいと考えています。

私が代表として青少年育成指導員代表者会議をこれらの情報収集の機会として活用していきたいと思

【編集後記】  
 今年の夏は連日、猛暑、酷暑、「命に関わる危険な暑さ」などとニュースで報道されています。枚方市の7月27日の気温が39.8度、40度に迫る暑さを記録し、NHKほっと関西の番組で「大阪枚方暑いのなんぞ？」というタイトルで取り上げられていました。

さて、新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日から「5類感染症」に引き下げられ、基本的対処方針を改定し、スポーツ観戦やイベントの収容人数制限を5月27日に事実上撤廃しました。

市内各地域においても4年ぶりに「夏祭り」「盆踊り大会」などの催しが開催され、多くの青少年たちが集い、楽しいひとときを過ごしました。

このように日常が戻りつつある中、青少年の笑顔を絶やさぬよう、事故や非行防止に取り組んでいきたいものです。

蹴上東校区 桑原 武志

